

## 本時のねらい

- ・SNSを通して伝える言葉や行動の受け取り方は、人によって違いがあることを知る。
- ・SNSと上手に付き合っていくために気を付けたいことを考える。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ロイロノートのシンキングツール（座標軸チャート）を活用し、いくつかの言葉や行動を「良い」と「いやだ」の間で位置付けさせることで、自分の思いを可視化し、整理して考えられることをねらいとした。
- ・ロイロノートの提出箱を無記名に設定し共有することで、「SNSについて」という、自分の考えを出すことが慎重になるテーマに対して、児童が自分の思いを表現しやすくなることをねらいとした。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・授業支援ソフト（ロイロノート）
- ・大型モニター

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ SNSがどういったものであるかを知る。</li> <li>○ 学習課題をつかむ。</li> </ul> 「SNSでの言葉や行動について考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活でよく使われているSNSの例を、写真などを提示して説明をする。</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5つの言葉を（SNS上で）友だちから言われて「いやだな」と感じる順番に並べ、理由を書く。（書けた児童から提出する。）【写真1】 5つの言葉「真面目だね」「マイペースだね」「大人しいね」「一生懸命だね」「個性的だね」</li> <li>○ 一番いやだと感じた言葉を理由とともに発表する。</li> <li>○ （SNSに関する）5つの行動を友だちからされて「いやだな」と感じる順番に並べ、理由を書く。（書けた児童から提出する。）【写真2】 5つの行動「話をしているときにスマホをさわる」「すぐに返信がこない」「知らないところで自分の話題が出る」「中々会話が終わらない」「自分の写真がSNSで公開される」</li> <li>○ 一番いやだと感じた行動を理由とともに発表する。（発表できる児童のみ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座標軸チャートに視点と項目を加えて配付する。</li> <li>・ 言葉のカードは視覚的にわかりやすいように色を分ける。</li> <li>・ 一番いやだと感じた言葉のカードだけを提出させることで、様々な意見（感じ方）があることを視覚的につかみやすくなる。</li> <li>・ 座標軸チャートに視点と項目を加えて配付する。</li> <li>・ 行動のカードは視覚的にわかりやすいように色を分ける。</li> <li>・ 一番いやだと感じた行動のカードだけを提出させることで、様々な意見（感じ方）があることを視覚的につかみやすくなる。</li> </ul>
まとめ (8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の振り返りをする。（学習への意欲を自己評価し、感じたこと・学んだことを記入する。）【写真3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返り用のシートをロイロノートで作成し配付する。</li> <li>・ ロイロノートで振り返りを行うことで、毎時間の振り返りをつなげておくことができ、児童がこれまでの活動や、自身の変化を見返しやすくなる。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子

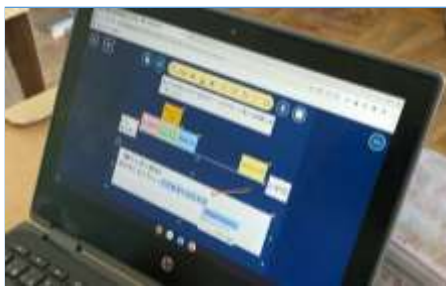


写真1：5つの言葉を「いやだな」と感じる順番に並べ、理由を書く場面



写真2：一番いやだと感じた行動のカードを提出した時の提出箱

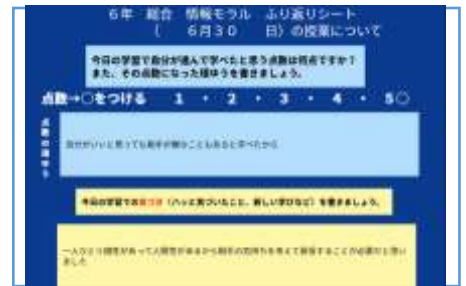


写真3：児童が記入した振り返りシート

## 児童生徒の反応や変容

- ・ SNSというテーマで難しいと感じる児童もいたが、自分がどう感じるかを真剣に考え取り組んでいた。その際、「文字だけであること」や、「文脈によって変わること」など、SNS上での会話の特性に気がつきながら考えることができていた。
- ・ 提出されたカードの色が違うことから、自分とは違う感じ方があることや、自分が「良い」と思っていた言葉や行動を「一番いやだ」と感じる児童がいることに気が付き、SNSとの向き合い方について考えることができていた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

言葉や行動のカードを色で分けて配付することで、提出箱を共有したときに様々な考え方があったことや同じ考えの児童がいることが分かるようになった。また、提出箱を無記名に設定することで、児童が安心して自分の考えと向き合えるようにすることができた。